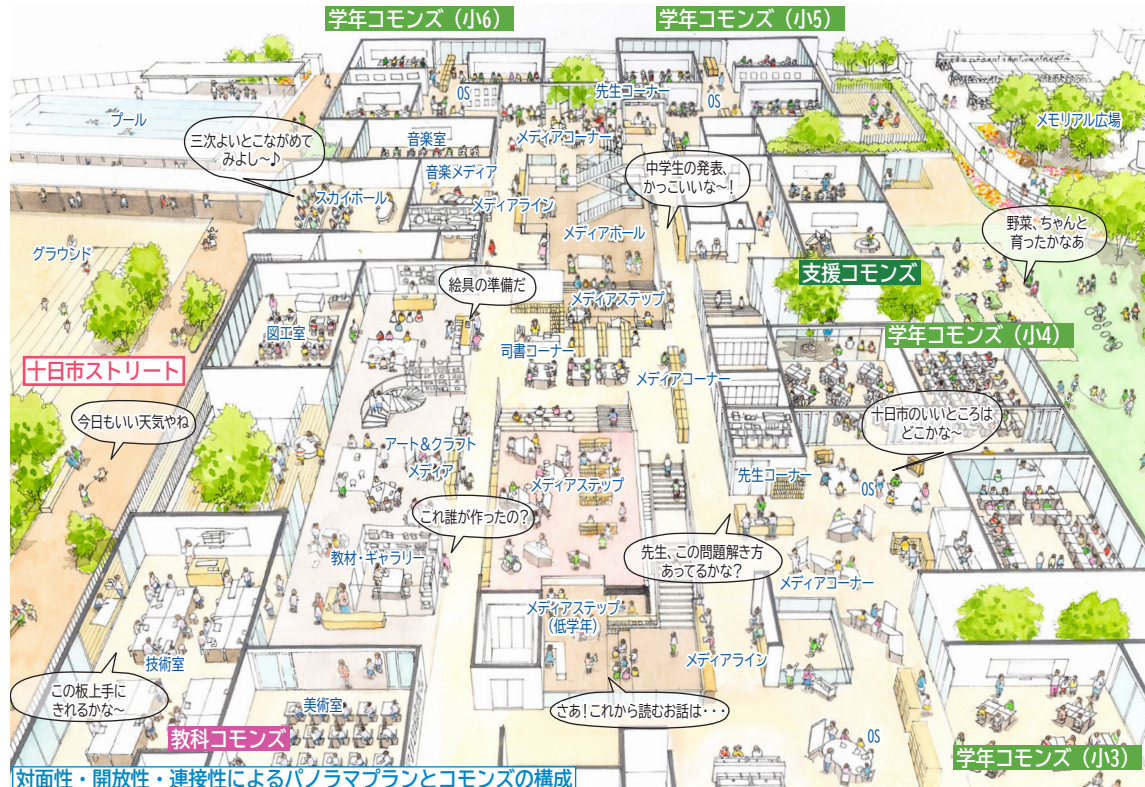


地域特性 豊かな自然環境、歴史的環境と呼応	多方向の通学動線、分散型の学校施設の結節点となる学校	敷地を横断する市道による開かれた学校の継承・発展
-------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------

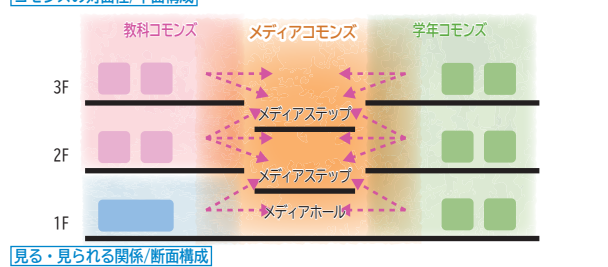
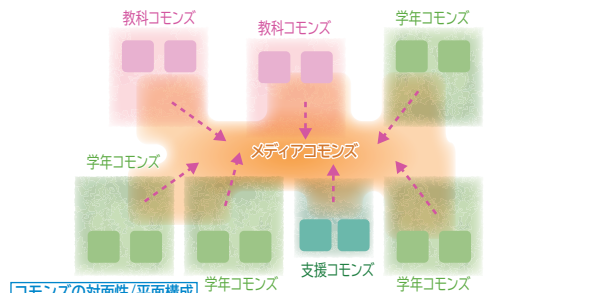


受け継がれてきた敷地の特性を生かし、多様なつながりと安心を育む学校づくり

学校全体がユビキタスな学びの場：コモンズとメディアネットワークによる創造的な学習空間



交流の場としてのメディアコモンズ：各コモンズが向き合う中央部に、吹抜・メディアライン（回遊動線）・メディアステップ（中間階）・大階段・メディアホール・マルチルームなど、多彩な空間形態で構成されるメディアコモンズを配置し、コモンズ相互を視覚的・空間的につなぎます。開放性・接続性・場の独自性によってアクセシビリティの高い学校全体の共用空間であるメディアコモンズでは、多様な児童生徒の学び・活動・生活が展開されます。場の共用を契機として、予定的・偶発的で直接的な異学年交流や出会い、協働活動などの異年齢のつながりが生じ起します。



地域に開かれ、多様な人の関わりが学びと共創を生む学校

セキュリティ区分による開かれた地域スペース

地域とつながる十日市ストリート:慣れ親しみのある市道を継承、発展させ、地域と学校をつなぎ自由な立入りが可能な「十日市ストリート」「縁側広場」(フリーゾーン)をつくります。

地域の居場所・拠点:十日市ストリートに沿って、開放的な地域サロン兼PTA室、地域と学校の中間領域であるオープンな地域ラウンジを配置。1次セキュリティチェック (SC) を経て立ち寄る地域の居場所・地域拠点 (1次セキュリティゾーン (SZ)) です。

まともりと段階性のある地域スペース：コミュニティ・スクールにおける地域学校協働活動の場、地域利用の場として、1次SZに接続し2次SZを経由して家庭科調理室・メディアステック（低学年）・マルチルームを配置。各教科教科モジュールなどの特別教室群を配置することで（2次SZ）、地域利用エリアをまとめるとともに、地域が段階的に学内に立ち入る計画とします。

セキヨリティゾーン (SZ) : 地域の立ち寄り可能エリアを3段階にゾーニングし、接続配置することで、学校の活動領域との交錯を回避して安全性を高めると共に、スムーズでグラデーション的な地域の浸透と連携を促します。

地域の相談機能を備えた保健室：十日市ストリートに沿って保健室を配置します。養護教諭二人体制を活用して、地域の子育て相談、健康相談が可能な開かれた相談スペースを設置します。

学校の活動と地域活動の融合：武道場1階には水回り・倉庫・部室を配置。既存の木工・金工室を活かし、地域も利用できるクラフトスタジオにします。

他校の利用に対応するゆとりとハレの場

ハレの場としてのメディアコモンズ：保育園、他校児童などの来校者が使いやすい1階に、交流活動・共同授業に利用できる広さと高さのあるメディアホール、大階段、マルチルーム、メディアステップを配置します。吹抜による視認性の高さは交流活動に生彩を与えます。

ゆとりある普通・特別教室周り：普通・特別教室周りもOSやメディアコーナーなどのゆとりのスペースにより、合同授業や交流活動が容易に展開できます。

通級学級の利便性: 他校からアクセスしやすいよう、十日市ストリートに通級教室+入口を設置します。

教職員間の交流: ゆとりのある交流ラウンジやマルチルームの活用により、他校の教職員とのスムーズな交流が可能です。

不登校や多様な特性への配慮

不登校専用の入口:不登校児童生徒のために昇降口とは別の専用の入口を設けます。

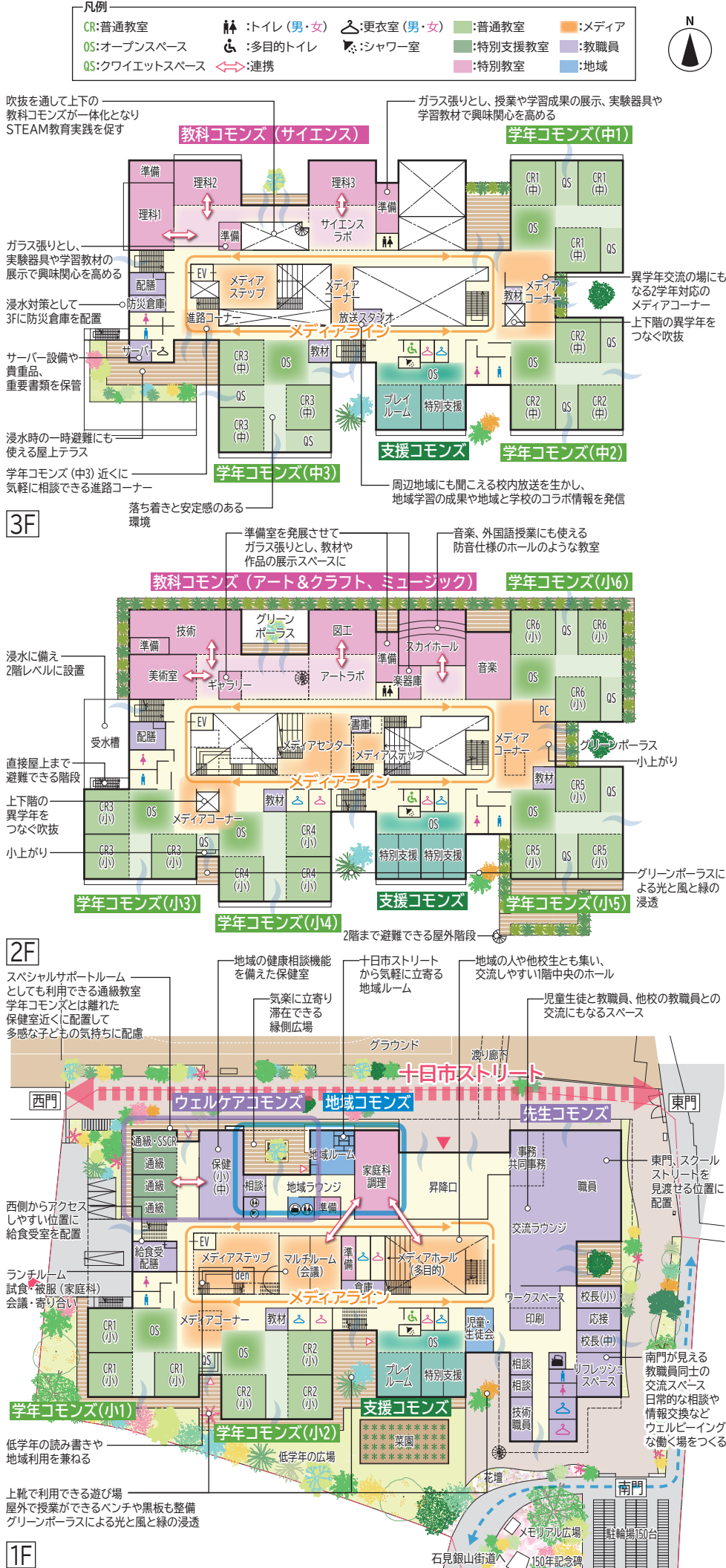
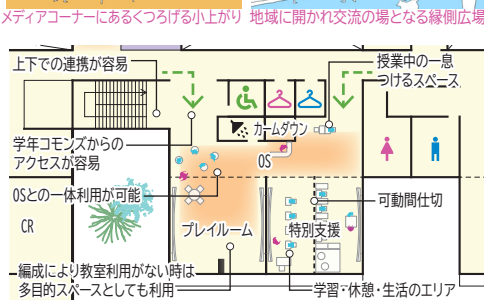
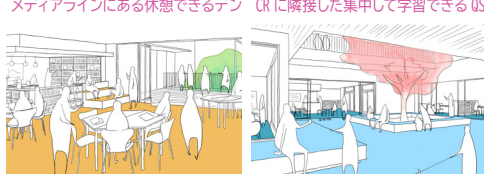
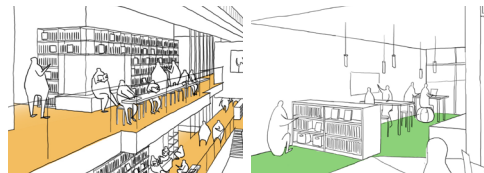
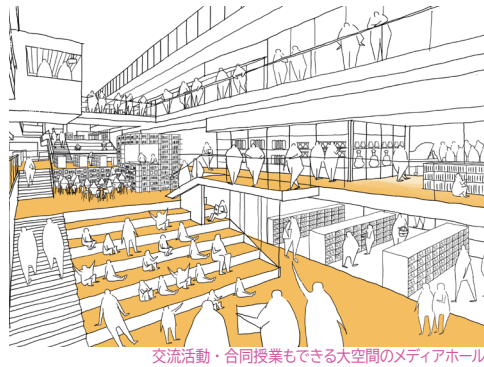
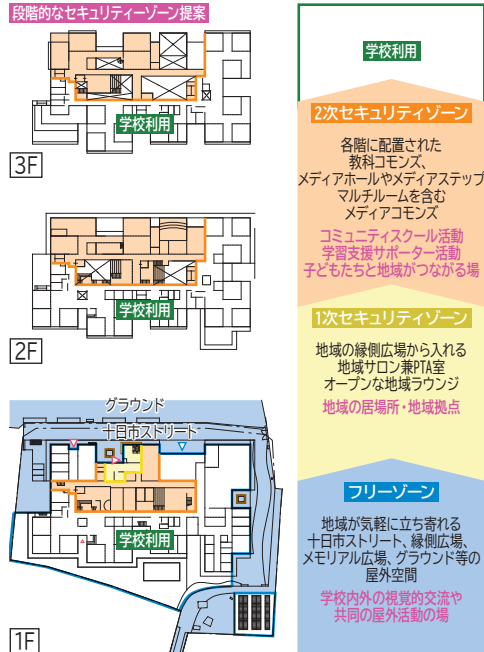
普通教室との距離感の選択：保健室に近接して不登校対応のスペシャルサポートルーム（SSCR）、校舎全体を巡り多様な場を備えるメディアネットワーク、普通教室（CR）周りの線動的OSやデン（低学年）などにより、不登校の段階や個々の児童生徒の特性・嗜好性に応じCRとの距離感を選択できるよう多様な居場所をつくります。

個別の特性に対応する支援コモンズ: 学習・リラックス・生活コナーを有する特別支援学級(2・4イ)と個別・集団、動的・静的活動に対応するプレイルーム、カームダウンスペース、水回りなどの構成により、一人ずつ異なる支援状況や行動に・特性にきめ細かく対応します。それぞれが選択可能な柔軟性や多機能性のある環境とし、自分のペースによる学びと生活が展開できます。

学年コモンズとの同列配置:各階の学年コモンズと同じ並びに特別支援学級を開放的に配置することで、CRとの視認性、連携・往来・交流を容易にし、インクルーシブな学びの環境をつくります。支援コモンズを、下で同じ位置に配置することで、特別支援学級間の連携を高めます。

ウェルネスエリアの通級学級：不登校対応・通級・保健室とを十日市ストリートに沿って集約的に配置します。相互連携しやすく、支援内容・方法の異なる児童生徒へのきめ細かい対応、総合的・体系的支援を可能とするウェルネスエリアを形成します。

性格の異なる場の選択可能性: 静かで閉じたデン、カムダウン、クワイエットスペース (QS) から動的で開かれたプレイルームやメディアコモンズ、QSまで、自らの嗜好や気分に応じて好きな場を選び、自分のペースで学び、過ごすことが可能な計画とします。



多機能・高度化が合理性につながる経済的な学校

「使い方・コト」にあわせた兼用による、多機能で高度化された「1+1=3」の学校づくり

「1+1=3」: 小学校と中学校を併設するのではなく、小中領域の一体化・共有化を図ることで、床面積の縮減だけでなく、単独校では得られない多機能で高度化された「1+1=3」の学校づくりを目指します。

教科対応から機能対応へ：単なる兼用ではなく、音楽・英語の音を出す活動に適した部屋（スカイホール）とするなど、使い方・機能に適した室やスペースを揃え、教科の枠に拘らずに利用する計画とします。

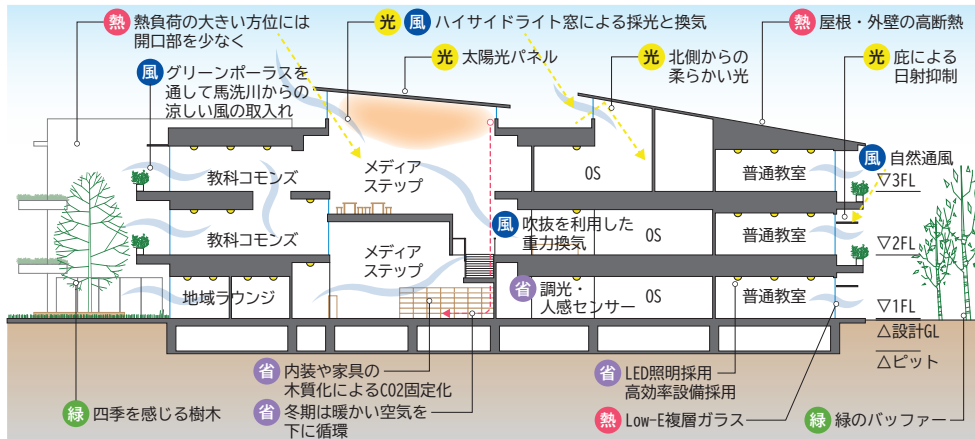
エディタブルな空間：間仕切を移動したり、使い方に合わせられる自由度の高い空間で構成し、用途に応じて編集可能（エディタブル）な設えとします。

メリハリのある予算活用:外構計画では可能な限り既存を活かし、必要な撤去・改修に留め工事費を削減します。

風と光と緑を活かす省エネ学習環境、学校の

風と光と緑を活かす省エネ学習環境、学校の施設特性を踏まえてZEB Readyを実現

- ・ 深い軒による日射抑制・採光や通風用の開口部を設けるといった伝統的な手法と、熱交換換気や太陽光発電設備等の環境技術で、費用対効果の高い手法から採用し、「ここにある」自然エネルギー活用による率効的な施設運用を実現します。
- ・ これまでの複数のZEB化施設の実績をもとに、学校の特性を踏まえたZEB Ready化を行います。
- ・ 高断熱化・高効率機器の採用により、一次エネルギー消費量の50%削減を実現します。



本施設の特徴		LCC 低減手法			低減コスト		項目		BEI	設計値 基準値	
多数の普通教室・特別教室		構造スパンのモジュール化			A	B	C	空調設備	0.61		
		汎用品の採用			A	B	C	換気設備	0.35		
建物面積の大きな建物計画		外壁面積の削減(→空調負荷低減)			A	B	C	照明設備	0.28		
将来の室用変更や児童数の増減が見込まれる		乾式間仕切り採用			A	B	C	給湯設備	0.87		
		設備シャフトや予備スリーブの確保			A	B	C	昇降機	1.00		
		機器増設部分を見込んだ電気容量の確保			A	B	C	太陽光発電(PV)	—		
改修時の安全対策に特に配慮が必要		長寿命・高耐久・低汚染仕上げの採用			A	B	C	その他	—		
騒音振動など感覚過敏な児童がいる		常緑樹を中心に採用			A	B	C	一次エネルギー消費量	※創エネ含む 0.50		
外構面積が大きい		高耐久仕上材・配管類の選定			A	B	C	空調設備	換気設備		照明設備
公共施設として毎年の財政支出の平準化が望ましい		ブラックスラット・脱臭消臭スローの採用			A	B	C	給湯設備	昇降機		太陽光発電(PV)
A 維持管理費(光熱・清掃費)		B 更新修繕費			C 工用変更にによる改修費			設計値 基準値			

耐用年数100年を見据えた長寿命の学校

- ・ 本施設の特徴を踏まえた工夫により、ランニングコストを抑えつつ耐用年数の長い、長寿命の学校をつくります。
- ・ 将来の児童生徒数・クラス数の変動に対応しやすい教室配置や乾式間仕切の採用によりフレキシビリティを高め、将来の改修費を抑えます。
- ・ 軒や庇による窓・外壁の汚れ抑制や、清掃に利用できるバルコニーを配するなどメンテナンスを容易にします。
- ・ 耐久性の高い工上材の採用により、修繕の軽減と周期延長を図ります。汎用材料・器具の採用により交換・復旧や日常点検を簡素化します。

市道で工事範囲を区分することで安全を確保し、学習環境・住環境を守る

- ・新築工事の範囲を市道より南側におさめ明快に安全区画し、北側敷地内は現状通りの学校活動ができるようにします。
- ・新築工事の車両出入りは西側からとし、登下校には北側敷地内では東西通り抜けを確保します。
- ・各階体工事では新校舎と反対側から出入りします。

